

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷九十第

行發日一月九年三十正大

論叢

世界の貨幣交通……………法學士 作田 莊一

フイアカントの社會學論……………文學博士 米田庄太郎

海運會社の保護と海運同盟の監督 法學士 小島昌太郎

時論

奢侈課税としての關稅……………法學博士 神戸 正雄

說苑

宗教と社會主義との關係……………法學博士 財部 靜治

獨逸の國內植民事業……………法學博士 河田 嗣郎

雜錄

漁船の遭難に就て……………經濟學士 蛭川 虎三

爲替の逆調による輸出増加に就て……………經濟學士 小川福太郎

統計的計數……………經濟學士 岡崎 文規

經濟論叢

第十九卷 第三號

(通卷第百拾壹號)

大正十三年九月發行

論叢

世界の貨幣交通 (二)

作田 莊 一

一 貨幣の在內價值と對外價值

貨幣の職分は社會に於て經濟價值を分配するに存し、販賣財(他人の需要に應じて有償的に提供せらるゝ貨物、勤勞、權利等)に對する購買力たることを以て其特質とする。貨幣は其任務として販賣財の價值を測定するが、貨幣自體に固有の經濟價值ありや否やは、貨幣論上の一大問題である。吾人の所見を約言すれば、此の固有の價值の有無は貨幣の價值の由來に關する問題であつて、現に貨幣が販賣財の價值を測定しつゝある場合に於ける貨幣の價值の決定に關するもので

はない。貨幣は最初に廣く需要さるゝ財貨の中より選擇されて、交換媒介及び價值測定の任務を與へられたのであるが、此の任務に堪ゆるには貨幣自身に利用價值を内容とする交通價值の存することを必要とする。併し廣く需要さるゝと云ふことは多種の財貨と交換され得ると云ふことであつて、此の特質は已に利用價值を内容とする交通價值以外に流通用具としての貨幣特有の價值を包藏して居る。貨幣の流通が普及し且つ確實となるに従つて、貨幣は其資料に存する交通價值よりも寧ろ其の廣汎なる交換能力の具有者としての價值を一層多く帶ぶることとなり、最後には全く資料の交通價值を捨て去つて單に交換能力としての價值のみに到達せんとして居る。斯の如きが即ち貨幣の價值の由來であるが、現に販賣財と對立する貨幣の價值如何と言へば、貨幣の作用は専ら販賣財を取すべき一般交換能力、即ち購買力を實現するに存し、此の販賣財と購買力との對立關係が貨幣の價值を決定する。而して其處には金貨と紙幣との資料價值の差異は問題とならない。金は金で居る間だけ特別に優待さるゝも、金貨となれば紙片の貨幣と資格に於て擇ぶ所なく、單に購買力としての價值あるに過ぎない。金貨を作ることによつて、世間は其だけの金の價值を失ふのである。

今日の貨幣は國家の一制度となり、國內に於て確實なる購買力として働いて居るが、對外交通が系統的、秩序的に行はるゝ現代にありては國外に對しても其の購買力を發揮し得るのである。

従つて一國の貨幣の價值は、在內價值と對外價值との二方面に區別せらるゝ。內國市場の販賣財に對する貨幣の購買力が在內價值であり、外國市場の販賣財に對する購買力が對外價值であつて、二者は並立して同一貨幣の二方面の能力を示す。從來の通説は一國貨幣と外國貨幣との交換比率、主として爲替價值を以て其の對外價值と稱して居るが、是は正當でない。貨幣の價值は專ら其の購買力に現はるゝ。従つて對外價值を爲替價值と見るか將た外國市場に對する購買力と見るかは、一に外國貨幣を貨物と見るか將た貨幣と見るかに由つて定まるのである。爲替手形は一種の商品として賣買さるゝが、其手形債權の目的物は外國貨幣であり、又手形によらざる内外貨幣の兩替や、一國貨幣を輸送して他國貨幣に改鑄する場合もあるから、此等を包括して一般に自國貨幣と代替せらるゝ他國の貨幣は販賣財なるや購買力なるやを決すればよい。然るにたとへ他國の貨幣と雖も販賣財を購買する以外には何の效能も有しない、其點は不換紙幣に就て見れば明白である。購買の意味を擴張すれば、爲替は他國の購買力を購買すると言ひ得らるゝが、其は通例謂ふ所の販賣財對購買力の關係とは別である。購買と云ふは一般に價值を代表する能力を給付して特定の價值ある財を取得することである。爲替は自國の價值代表物を與へて他國の價值代表物を取ることであり、同性質の財の交換であつて代表物と特定物との交換ではない。自他貨幣の交換は互に他國市場に於ける購買力を得んが爲めである。爲替は他國貨幣をも貨幣として取扱ふ

もので、他國の購買力を取得するは購買にあらずして自他の購買力の代替である。殊に他國の貨幣が之を自國より見るも尙ほ貨幣と見らるゝ所以は、近代の各國民經濟が進歩せる貨幣交通制を具へ、是等の均しき組織を有する交通經濟が對等の地位に於て結合され、自然秩序の下に世界經濟なる一大交通系統を形成し居れる事實に基く。購買の爲めに貨幣の代替を行ふは恰も他國文書の翻譯の如く、自國語も他國語も共に思想發表の道具であつて、並存せる國語を代替して互に他國の思想を知るに類似して居る。

尙ほ獨逸學者の中には、金貨と不換紙幣との間に價值の開きを生じ、市場に於て主にも紙幣が流通する場合に、紙幣の市場に於ける購買力を在內價值 *Binnenwert* と呼び、紙幣の金貨に對する代替價值を對外價值 *Aussenwert* と稱する者多々も、これ亦不當の命名である。一國の貨幣を構成する本位貨幣間又は通貨間の交換比率は在內代替價值であつて對外代替價值と對立する。又紙幣の國內に於ける購買力は主にも流通する一貨幣の在內購買價值——單に在內價值と呼ぶもの——たるに止まり、今の獨逸に於ても其他に、現實には流通せざるも國內に於て購買力を有する金貨が存在し、此にも在內購買價值がある。貨幣制度の整へる國にては、單一又は統一本位制及び複合通貨制を保持し、異種本位貨幣間又は通貨間の交換比率なるものは存しない。其が整はざる支那の如きは、諸地方に流通する異種の本位貨幣間及び通貨間に國際に於けると同様な國內爲替

相場が成立し、且つ日々變動することが常態となつて居る。獨逸に於て二十金マルクに對する紙マルク幾許と云ふ兩替相場が発生せるは貨幣制度が破綻せる結果であり、而かも金貨が尙ほ存在して紙幣との間に代替價值を生じ、紙幣と並んで貨幣の在內價值を二重に成立せしめ居ることを示すものである。レンテンマルクが發行されても此の状態に變りはない。

斯の如く一國貨幣の在內價值は、單一に、又は多重ならば在內代替價值を生じつゝ、孰れにしても内國市場に於て貨幣が販賣財を購買する能力である。之と並んで一國貨幣の對外價值は、外國貨幣を通過して外國市場の販賣財を購買する能力である。國內にては直接に販賣財と購買力とが相對するのみなるが、自他兩國の關係にあつては其上に、自國に於ける販賣財と購買力とを對立せしむる貨幣交通と他國に於ける販賣財と購買力とを對立せしむる貨幣交通とが更に相對關係を成して居るのである。

一國貨幣の對外價值は内外貨幣の交換比率即ち對外代替價值と外國貨幣の其國に於ける購買力即ち在內價值とを相乘したるものである。従つて其の對外價值の高低は代替價值及び外國貨幣の在內價值の高低に正比する。換言すれば一國貨幣が購買すべき外國市場に於ける販賣財の一般價格、即ち對外物價の高低は、支拂建による爲替價格及び外國市場の在內物價の高低に正比するのである。

一 國貨幣の在內價值と對外價值とは無條件通用範圍の内と外とに於ける二つの市場に對する同一貨幣の購買力を指すのであるから、同種の販賣財に徴して内外の市場の孰れが高きか低きかを容易に比較し得べく、貨幣は其價值を高く認めらるゝ市場に向つて進動する。一國の貨幣も此の内外兩市場を通じて活動する状態から、世界貨幣の資格を受け來るのである。

二 國民貨幣と世界貨幣

一 國民の貨幣も國定貨幣成立以前若くは成立後其が破壊されたる場合の複雑貨幣にあつては、異種貨幣の間に代替價值を生ぜしめ、殊に其等が地方的に流通區域を限らるゝときは爲替相場さへも成立せしむる。現代の進歩せる國民經濟は國家の意志統制の下に立つ交通經濟であつて、其組織の一をなせる貨幣交通は國家の立法に由つて制定されたる單純貨幣の獨占場となり、其處には國內に於ける貨幣の代替價值を成立せしむる餘地なきに至つた。而して代替價值は國內を脱して國際に現はれた。各國の國定貨幣の間に代替價值を生じたることは、世界に於ける貨幣交通の尙ほ不完全なるを示す所以なるが、同時に其は、曾て代替を必要としたる不完全なる國民貨幣に對當して不完全ながらも已に世界貨幣の存在することを語るものである。

國民經濟が在內交通方面と對外交通方面とを併有する如く、國民貨幣も亦在內、通用と對外、通用

この二方面を有する。前者は無條件の通用にして、後者は各國共に國定貨幣制度を有する事情により内外貨幣の取換を経て始めて可能となり、是等は其々先きに述べたる在內價值及び對外價值に其根據を有する。英國の磅は已に久しく、米國の弗は近頃となりて歐大陸に於ても受取られ、直接に國境外にも通用する如く見ゆるが、是ごても當時の爲替相場に依り使用地の貨幣に換算されて受取らるゝが故に、使用地は外國であつてもやはり取換を要する對外通用である。此の一國貨幣が外國の貨幣と代替され其外國の國定貨幣を用うることを、一國貨幣の國內通用と同様に通用と云ひ切ることに就ては或は反對があるかも知れない。併し貨幣の通用とは購買力を發現することであり、購買力の外に效能のないものが其の能力を發揮する以上は之を通用と云ふを妨げない。唯だ在內通用が直接に且つ國家統制の下に強制さるゝに對し、對外通用は間接に且つ全く自然作用として行はるゝ點を異にする。

一國貨幣の對外通用は内外貨幣の取換を前提とするが、貨幣制度の整へる國が然らざる他國と貿易を行ふ場合には内外貨幣の取換が圓滑に行はれない。蓋し其他國の貨幣交通が全國に普及せざるか、又は他國に於て自國民が熟し易からざる貨幣交通の慣習を有するか、若くは他國の貨幣が複雑貨幣であり其間に價值の相違及び變動あるとき其の貨幣を受取つて其他國の貨物を購買することが營業上不便又は危険なるかの場合に於ては、一種變態の國際貨幣交通を生ずる。斯かる

場合には先進國に於て相手國民が信用すると考へらるゝ特殊の貿易貨幣を用ゐ、先づ之を與へて相手國の貨物を買取り、次に此の貨幣に限りて自國の貨物を賣渡す方法をとる。先進國民は貿易貨幣を使用するに由つて他國貨幣を收受する不便又は危険を避け、相手國民と亦亂雜なる自國貨幣よりも寧ろ品位及量目の一定せる、且つ價値の差異變動少なき貿易貨幣を喜んで使用する。古くは澳太利のマリアテレシア、ターレルの如き近くは東洋市場に於て今尙は行はるゝ墨銀貨、香港銀貨等が其である。我國も初め外國より貿易銀貨を差向けられ、次で自ら貿易銀貨を制定し、後に之を國內通貨に引直した。支那の國定銀元も略ぼ同様の徑路を取つて發生したが、國定通貨が不足又は不良なる故に開港場には尙ほ外國製の貿易銀貨が流通し、幾分は尙ほ内地にも入込んで居る。斯の如き國際貿易専用の貨幣は純然たる國際貨幣であつて、此あらば別に内外貨幣の取換を必要としない。否な極端に言へば未だ貨幣交通制を有せざる未開國民であつても、又ソヴェット露西亞が最初に企てたる如く國內の貨幣交通制を廢止するとしても、貿易貨幣が存在し若くは外國貨幣を其のまゝ貿易貨幣に使用し、之に由つて貿易を行ふならば、自ら全く貨幣を有せずとも國際貨幣交通を行ひ得る。斯かる國民貨幣を有せざる場合は暫らく措いて、ともかく専用の國際貨幣を使用することは一應は國際交通上甚だ便利である。されど斯の如きは一國民經濟をなせる在內貨幣交通と對外貨幣交通とに就て別殊の貨幣を用うることであるから、國民貨幣が一種

の複雑貨幣制となり、國民貨幣交通の統一を紊るものである。斯くて後進國が貨幣制度を整へ單純貨幣制を立つるに至れば、或は貿易貨幣を其まゝ國內通用貨幣とするか、或は貿易貨幣の通用を禁じて國內通用貨幣を併せて對外通用に差向けるかによつて、國際交通専用の貨幣を消滅せしめ、之に代つて内外貨幣の取換を必要ならしむるに至るのである。世界大戰後、獨逸の幣制が紊亂するに及び、輸出品の中には價格を定むるに金マルク、又は一シリング若くは四分の一ダラーを單位とせるものあるに至つたが、是等の貨幣單位は一種の貿易専用の國際貨幣と見做して差支ない。其ほど獨逸の幣制は逆轉したが、近時レンテンマルクを發行して表面だけは此の逆勢を挽回し得たのである。

以上舉げたる貿易貨幣は先進國と後進國との間に於ける特殊の國際貨幣なるが、近時大戰後に於ける一般國際貨幣交通の退轉せるに顧み、國際銀行を設立し國際兌換券を發行しようとする意見が頻りに唱へられて居る。其は謂はゞ國際交通専門のエスベラント貨幣を創定せんとする計畫である。併し言語交通と違ひ貨幣交通は數字の仕事であるから、各國の貨幣制度を確立し且つ國際爲替組織を鞏固ならしむることを努むるならば、必しも國際貨幣を要しない。否寧ろ圓をエスベラント貨幣に引直ほし、更にエスベラント貨幣を磅其他に引直ほすよりも、爲替組織によりて直に圓を磅其他に引直ほす方が便宜である。又國際貨幣を創設することも、之によつて歐大陸諸國

の幣制の紊亂を救済することは出来ないから、之を實行することも結局は利己的なる萬民主義者を利し、國際貨幣交通を一層煩瑣ならしむるに止まるであらふ。

上述の如き國際交通專任の國際貨幣なき場合に於ても國民貨幣制度が整頓するに至れば、内外貨幣の取換によりて一國の貨幣を確實に外國にも使用し得る。此の各國貨幣の對外通用が系統的秩序的となるときは、其が一般に亘る國際貨幣交通であつて、此の任務を盡くす限りに於て一國の貨幣も國際貨幣の中に列することゝなる。之と相並んで一國貨幣が専ら國內に通用する方面は國內貨幣に外ならぬ。此の無條件に購買力を發現する國內貨幣たる方面と取換の條件の下に何國に於ても購買力を發現し得る國際貨幣たる方面とを綜合して見るときは、其處に國民貨幣が、世界貨幣の資格を有することを認め得るのである。尤も圓、磅、弗と云ふが如き一國特有の貨幣を目して世界貨幣と稱するは穩當を缺ぎ、世界貨幣と言へば世界各國の貨幣同盟によりて成立する單一の貨幣でなければならぬと考へられ易い。併し吾人は意志統制組織の國民經濟が嚴存すると同時に、又自然結合組織の世界經濟が現在すると見る同じ考へ方を以て、人爲的立法に由つて成立する國民貨幣が存すると同時に、自然的に各國の貨幣が世界貨幣たる機能を具有すると見るのである。支那にありては各地方の各種の貨幣が國內爲替組織を通じて自然的に國民貨幣の一團を成して居る。之と等しく世界に於ては各國の國定貨幣が國際爲替組織を通じて相互に代替されつ、

到る所に購買力を發揮して居る。世界は自然的ながらも已に一團の經濟交通系統を成し、各國に於ける販賣財對購買力の貨幣交通制は意志的秩序によりて自立すると同時に、自然的に密接に連結されて、國々の販賣財が一方の側に、國々の購買力が他方の側に立ち、財貨の流通方式が交換より賣買に進轉し居るのである。

各國を通じ何處に於ても直ちに購買力を發揮し得る貨幣が出現するならば、其が世界貨幣なることは何人も疑を挾まない。斯の如きは、單純世界貨幣である。然るに現代に見る世界貨幣なるものは、國內兼國際購買力たる圓、磅、弗等數十種の國民貨幣が並立し、相互に代替されつゝ世界市場に於ける販賣財に對立し居る状態を指すのであつて、吾人は之を複雜世界貨幣と呼ぶ。先きに述べたる如く、國民貨幣と雖も國家が單一又は統一本位制を確立するに至つて始めて單純貨幣となつたが、其以前は慣行に由つて各別に價値の基準となれる數種の貨幣が並立せる複雜貨幣であつた。貨幣の觀念は形態を異にし時代によつて變化する箇々の通貨を意味しないで、時代を通じて一貫せる購買力たり、又一定の流通地域に亘りて一統せる購買力たる點に存する。此意味の貨幣は無形的なれど具體的な實在である。此の無形の貨幣を構成する有形の表現物が即ち通貨である。併し世界貨幣たる圓、磅、弗等は如上の意味に於ける通貨でないことは勿論であるが、又其等の一々が直に全き意義の世界貨幣でもない。世界貨幣は多種の本位を並存せしむる複雜貨

幣であつて、圓、磅、弗等が自然的に聯帶して一の全き世界貨幣を構成するのである。世界貨幣は謂はゞ國民貨幣の綜合であるが、其は決して其等の通性を取れる抽象的觀念ではない。

三 共通貨幣と別殊貨幣

世界貨幣は自然の産果たるに止まり、法制上より見れば各國貨幣が皆獨自の成立基礎を有し互に相通する所はない。されど其の貨幣成立の權威を外にして單に其の經濟的機能の特徴を見るときは、各國の貨幣の間に於て共通の流通性を有するものと然らざるものがある。説述の便宜上、一を世界貨幣中の共通貨幣と呼び、他を其中の別殊貨幣と稱する。同一の金屬を本位とし、其通貨の自由供給及び自由輸出を許せる國々の間——金貨國又は銀貨國の間——に於ては、一國の貨幣が其資料を變へず、單に鑄造上の形態を變へるのみにて他國の貨幣となり得るが故に、其金屬は恰も貿易貨幣の如き國際通用性を有し、各國特定の貨幣形態をとるによつて其々の國內通用性を取得する。従つて此種の貨幣は其等の國の間に貨幣成立の自然的基礎を同ふし、彼此相通じて一國內の貨幣の如き作用をなす。其が共通貨幣である。共通貨幣の間にありては代替平價が同一なる金屬本位通貨の單位純分の比量であつて其は一定不動であることを特色とする。然るに異種の金屬を本位とする國々の間——金貨國と銀貨國との間——に於ては、一國貨幣が他國貨幣とな

るには異種金屬を取換ふるを要する故に、兩者間に共通の基礎なく、其等の貨幣間の代替平價は異種金屬の交換比率であつて、其は金屬の市價の變動に伴ふて變動する。更に不換紙幣國は其等の間に於て、又其等と金屬貨幣國との間に於て全く何等の物質的共通の基礎なき故に、其等の代替平價は後に述ぶる如く貨幣其ものより來らずして、カツセル教授の唱ふる如く貨幣の在內購買力の對比によつて定まり、其は購買力の變動に伴ふて變動する。而して紙幣間には、金貨及銀貨間の如き金屬の產出と云ふ自然的制限すらも存しないから、代替平價の變動は全く無制限に生じ得る。斯の如く貨幣間に共通の成立基礎なく、代替平價が變動するものを相互の對立より見て別殊貨幣と云ふ。

序に代替平價の意義に就て少しく付言したい。平價とは二財の經濟價値の相等なることを指し、交換しても損せず益せざる二財の一定分量である。従つて平價には二財に對する價値判斷が不變なる場合と變化する場合とあるに由つて、一定不動の平價と絶えず變動する平價とがある。平價とは平穩の價値でなく、平準の價値である。此意味に於て金銀爲替又は紙幣爲替にも平價がある。又平價は交換を惹起せざる所の對等價値であるが、獨り内外貨幣の代替にあつては平價にも交換が行はるゝ。これ貨幣が購買力であり、外國貨幣を以て購買する外國の販賣財に對し、自己の提供する價値以上の不平等の價値を認むるからである。

次に現代に於ける共通貨幣と別殊貨幣との組別が如何になり居るかを見るに、支那及び香港は銀貨本位制を採り其等が一組の共通貨幣となつて居る。其他の國は世界大戰前までは皆金本位制を採り、其中にも後進たる金爲替本位制の國又は殖民地が金貨爲替を共通とするに止まる外は、先進國の總てが金貨の自由供給及び自由輸出を認むる金貨國として最も勢力ある共通貨幣の大集團を成して居た。然るに世界大戰となつて是等の諸國は皆な金の輸出を禁止し且つ法律上又は事實上金貨兌換を停止して事實上の不換紙幣國となり、金貨國間の共通貨幣は四分五裂した。今日に於ては、金の輸出禁止を解除せる米國及び瑞典の貨幣が共通貨幣となれるのみにて、其餘は尙ほ不換紙幣のまゝに別殊貨幣となつて居る。但し是等の紙幣國と雖も紙幣本位制を採用したる譯ではなく、依然として金本位を持續し其下に代表通貨たる不換紙幣を流通せしめ居るに過ぎない。即ち能動的には紙幣國であるが、所動的には金貨國である。従つて紙幣國に對し金貨國より金を輸送し金貨の鑄造を求め之を以て購買することも可能である。併し紙幣の價值は多少の差はあるも總て金貨よりも下落し居るが故に金貨を紙幣國に持込む餘地なく、其點が紙幣國の金輸出禁止と相待つて、代表通貨たる不換紙幣を殆ど本位紙幣の如き状態に置いて居る。斯く多數の國が紙幣國となれる結果として、米國の如く早くも金貨國に復歸せるにも拘らず、殆ど共通貨幣の効果を收め得ないで、多數の紙幣國に對して之と同様に別殊貨幣に止まる外はない。是に於てか

吾人は知る、金貨國の有利なる點は己れ自ら金貨國たるが故にあらずして、寧ろ他國も共に金貨國となりて共通の地盤に立つが故なることを。

世界貨幣の作用及び其効果は、各國の貨幣が多く共通貨幣となるだけ之を増大し、別殊貨幣となるだけ之を減少する。蓋し共通貨幣間の代替平價は不動なる故に之によつて世界の貨幣交通をも安定せしめ、別殊貨幣間の代替平價は變動すべき傾向ある故に之によりて世界の貨幣交通をも動搖せしむる。如何にせば大戦前の如き共通貨幣に復歸し得べきか、之れ現代の世界の最も重大にして且つ困難なる問題の一つである。吾人は此の問題を考察する最も卑近なる端緒として、共通貨幣と別殊貨幣との交通状態を對照して見たい。而して前者に就ては大戦前に存したる金貨國間の交通状態を尋ね、後者に就ては大戦後に現はれたる紙幣國間の交通状態を觀察するであらう。

四 金貨國間の貨幣交通

金貨國間の貨幣交通の中、金貨爲替の問題は、改めて説明するを要しないほどに世間周知のことであるが、唯だ議論の順序として此の問題より述べて行きたい。金貨國の間に於ては各國の貨幣が單位純分を異にするのみにて其の質を同ふし、且つ一國の金貨は輸送せられて無制限に他國の金貨となり得るが故に、各國貨幣の對外代替價値は金貨の純分の比量によりて定まる代替平價

に金の輸送費を(鑄造手数料を要せば之をも)加へ若くは減じたる正貨出入點の程度に限定せらる。此の代替價値の限界は、各國市場に於ける貨幣の購買力若くは物價と關係なく、單に貨幣の資料が共通であり、且つ貨幣の自由供給及び自由輸出が認めらるゝと云ふ貨幣其ものゝ性質に基く。此點が紙幣の代替價値の決定と異なる最も著しい特色である。

金貨間の代替價値は如上の限界を有するが故に、此程度の代替價値を通過して外國市場の物價を見るときは、一國貨幣の對外價値が或程度に限定さるゝ。内外の市場に注目する者は、兩市場に於ける等しき又は等しかるべき販賣財を目標として自國貨幣の在內價値と對外價値とを比較し、在內價値高ければ貨物の輸出を企て、對外價値高ければ輸入を試むる。貨物の輸出入其他の原因によりて外國貨幣の需要及び提供を生じ、其が實際の爲替相場を決定する。此の實際の爲替相場は更に自國貨幣の對外價値を決定し、之によりて更に輸出入を惹起し爲替相場を變動せしむるが、一定せる内外金貨の純分の比率を平價點とし、之に基いて略ぼ一定せる正貨出入點の間を平價界と名づくるならば、爲替相場は平價界にて一定不動であると言ひ得る。従つて平價界の内に於ける爲替相場の高低並に之と互に因果關係を有する貨物の輸出入其他の對外收支の原因を無視するならば——其は又大局より見れば無視し得るが——、金貨國間の代替平價は常に不動にして且つ毎に平價を以て代替され、此の代替は金に非ずして國定貨幣たるが故を以て、爲替又は兩替

の需要及提供が適合せざる場合には、金貨を輸送して、外國金貨に改鑄するのである。

金貨國間にありては貨幣の代替價值が平價界を限りて一定不動なるが故に、是等の國々の市場が異なる國定貨幣の下にあり、且つ貨幣單位を異にして販賣財の呼値に大小の差を生ずるも、事實上に於ては是等諸國の市場が相合して自然的に同一貨幣の流通地域となる。従つて各國の販賣財が同一基準によりて價格の高低を比較され低價の國より高價の國に移動する状態は、恰も國內市場に於けると異らない。但だ國際市場が國內市場と相違する點は前者に關稅ありて貨物の流通を妨ぐることである。運賃の如きは國土の廣狹及び通運機關の整否に由り、國內市場が必しも國際市場よりも低廉なる譯ではない。販賣財の國際移動は各國を通じて見たる物價の絶對的差異によりて惹起せられ、物價高き國は多く輸入し其の低き國は多く輸出する。斯かる貨物の移動は、各國に於ける貨物の需要及び提供の變化と購買力の伸縮とによりて中和し、自ら各國の物價を平均せしむる傾向があるも、更に各國の間に通貨の伸縮又は購買欲の増減によりて物價の懸隔を生ずるときは、復た貨物の國際移動を新たに促進するのである。茲に一言すべきことは内外の物價を比較する場合に於て貨物の種類の差異に基く比較方法の相違である。内外の市場に於て提供さるる同種同品質の貨物に就て價格の高低を比較するは最も容易なるが、孰れか一方の市場に於てのみ提供さるゝ貨物に就て價格の高低を判定する場合には次の區別がある。若し、一方の市場のみ

に提供さるゝ貨物が單に品質の優良なるのみならば、其の價格を他方の市場に存する同種の品質劣等なるものゝ市價と對照して比較を試むる。又一方の市場のみに提供さるゝ貨物が全く他方の市場に存せざる種類のものならば、代用品あらば之と對照し、其も無ければ其貨物が其他方の市場に入つて幾許の市價を有し得べきかを判斷して之を提供市場の價格と比較するのである。

次に金貨國間にありては貨幣の成立基礎が共通なる故に、正貨輸送の方法によれば無制限に對外支出又は收入をなし得るのである。之を對外收支の主なる原因たる貿易に就て見るに、物價高く又は多種多量の需要財が自國にて生産されざる國にありては無制限に外國品を輸入し、之と反對の狀況にある國は無制限に國産品を輸出する傾向がある。無論此の爲めに或國は支出超過となり他國は收入超過となるも、其は少しも爲替又は正貨輸送に由る平價界内の代替價格を動かすことなく、代替價格は對外收支の偏差を矯正する力を有しない。極端に言へば一國は支出のみであり、他國は收入のみである場合すらも想像し得らるゝ、濠洲の金産出多大なりし頃には、大部分の需要品を輸入し之に對して金を供給した。此場合には金と他の貨物とが交換されたとも言ひ得らるゝが、金は英本國其他の國に對し一般交換能力を有する財として供給せられたる譯なれば、金を産出せざる國が對外支出超過の際に正貨を輸送して支出を實行すると異なる所はない。

金貨國間に於ける收入超過又は支出超過は、正貨の増減に由つて通貨及び信用の伸縮となり、次で物價の騰落となり、輸出入の方向轉換となり、終に收支の反對増減となりて收入又は支出超

過を無制限に増加せしめざる傾向もある。されど富源乏しく工業進まざる國民は貨物輸入の必要に驅られ、外資に由つて正貨を補充し、輸入超過及び支出超過を繼續し、富源豊かに工業盛んなる國民は過剰の正貨を外國に投下して、依然輸出超過又は投資利得に由つて収入超過を持続する傾向も亦現實に之を見る。此の収入超過又は支出超過が長く繼續し得る所以は、貨幣の代替價值が不動なる故に各國の物價の絶對的差異が對外收入又は支出の原因をなし、且つ無制限の收入又は支出を可能ならしめ、又代替價值の不動が國民間に於ける資金の貸借を確實容易ならしむ點に存するのである。而して長く支出超過を續くる國は終には外債を募り得ざるに及んで金本位制を保持し得ざるに至るべく、長く収入超過を續くる國は終には對外投資の餘地なきに至りて、通貨の氾濫を避くる爲めに已むなく正貨を封印して流通界より除斥し、金貨の自由供給を制限し若くは金の輸入を禁止し、これ亦過ぎたるは及ばざるが如く、結局、金本位制を改變する外はないであらふ。然らば斯の如き金貨の不足に苦しむと其の過剰に苦しむとの二様の結果は、果して金本位制其ものに固着する缺點の露現であるか、或は單に金本位制の運用の拙劣なる爲めであらうか、將た此の本位制が一二の國民を犠牲とすることありとするも世界經濟上の貨幣交通制としては未だ之に勝るものなしと見て、各國舉つて之が支持に努力するに至るであらふか。吾人は是等の問題を考慮するに先ち、一應、金本位制と反對の特徴を有すと思はるゝ紙幣國間の交通状態を觀察しなければならぬ。(未完)